

第4学年 授業改善推進プラン

1組 27 2組 27

1 昨年度 授業改善推進プランについての検証

国語科	自分の考えを話すことができる児童が多いが、大事な部分を聞きとることに課題がある。段落の役割を理解し、段落相互の関係に注意して文章を書くことが課題である。
社会科	町探検や区内めぐりなど体験的活動には意欲的であるが、資料を読み取ったり、資料から分かることを考えようとしたりすることに課題がある。
算数科	文章問題に対する、思考（読み取り・見通し）に課題があり、題意をとらえることが難しい児童がいる。
理科	観察から自然の事象・現象を比較して共通点や相異点を見付けることはできるが、文章を使って表現することに課題がある児童がいる。予想がなかなか立てられない児童がいる。
体育科	技能を向上させるため、工夫して運動している児童もいるが、チームでよい結果を出すためどうすればよいかを考えていない児童もいる。
音楽科	全体的には歌唱や器楽などに意欲的に取り組んでいる。歌唱は、生き生きと声で歌うことができるが、低音の発声が地声になってしまうことが課題である。リコーダーの音域が広がり、運指が混乱してしまう児童がみられる。
図画工作科	大変意欲的に活動に取り組んでいる。おおむねの児童が豊かに発想しているが、発想を広げられない児童もいる。

2 学力に関する調査結果の総括（大田区学習効果測定の結果に対する考察） ※全体の傾向

国語科	目標値より ↑	<ul style="list-style-type: none"> ☆ ほとんどの内容で目標値を上回っている。 ☆ 「物語の内よみ取り」では、目標値を14ポイント上回っている。 ・ 「作文」に関してのみ、2.7ポイント下回っている。2段落構成で文章を書くことに課題がある。
社会科	目標値より ↑	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 全ての内容で目標値を上回っている。 ☆ 「市の様子」「工場の仕事」では、目標値を12ポイント以上上回っている。 ・ 「学校のまわりの様子」では、地図記号や方位の知識をもとに、方位磁針の針のふれ方について、実際の調査場面に即して判断することに課題がある。
算数科	目標値より ↑	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 全ての内容で目標値を上回っている。 ☆ 「円と球・三角形」「口を使った式」「ぼうグラフと表」では、目標値を12ポイント以上上回っている。 ・ 「かけ算」では、3けた×2けた=4けたの計算を求める問題に課題がある。
理科	目標値より ↑	<ul style="list-style-type: none"> ☆ ほとんどの内容で目標値を上回っている。 ☆ 「こん虫のからだのつくり」は18.9ポイント、「物の重さ」では、11.4ポイント上回っている。 ・ 「こん虫の育ち方」は目標値を1.8ポイント下回り、不完全変態する昆虫を指摘することに課題がある。 ・ 「電気の通り道」では目標値を9.4ポイント下回っている。一つの輪のようになっている電気の通り道のことを「回路」と呼ぶこと、鉄の缶とアルミニウムの缶は、電気を通すかどうかでは区別できないことを思考することに課題がある。

3 平成30年度 授業改善推進プラン

国語科

関心・意欲・態度	課題	進んで学習に取り組む児童が多いが、漢字や作文など書く活動に苦手意識をもち、意欲が低い児童がいる。
	重点	漢字やローマ字の読み・書きは、日常的に使用できるような指導を継続し定着をはかる。家庭学習を含め、反復練習を毎日行えるようにする。習熟の状況を定期的にチェックし、その状況に応じた指導を行い、自信をつけることができるようにする。
話すこと 聞くこと	課題	話の内容の中心を落とさずに聞き取ることに課題がある。
	重点	相手を見て集中して聞くことやメモの取り方を指導し、話の中心を判断することができるようにする。
書くこと	課題	書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くことや、自分の調べたことや自分の考えを相手に伝えるように書くことに課題がある。
	重点	文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成することができるようにする。そのために、構成メモを作り、自分が書いた文章は必ず読み返すようにさせ、間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする習慣をつけることができるように指導する。
読むこと	課題	説明的文章を読んで、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすることに課題がある。
	重点	叙述内容に即して読むこと、事象と感想・意見の関係を押さえて読むこと、調べ学習など目的に応じて読むこと、声に出して読むことを発達段階をふまえて重点的に指導する。さらに読み取ったことを要約する機会を増やす。
言語に関する 知識・理解	課題	既習の漢字や言葉を日常の学習場面で使おうとしない児童がおり、言語に関する知識・理解の定着がやや不十分である。
	重点	漢字やローマ字の読み・書きは、日常的に使用できるような指導を継続し、定着を図る。家庭学習を含め、反復練習を毎日行えるようにする。習熟の状況を定期的にチェックし、その状況に応じた指導を行う。

社会科

関心・意欲・態度	課題	学習計画を自分で考えて立てる経験が不足している。学習課題にすすんで取り組もうとする姿勢や、すすんで自分の考えを表現しようとする態度が十分に身に付いていない。
	重点	資料提示の仕方を工夫し、見学して分かったことや気が付いたことと既習事項を基に、学習計画を立てる活動を行い、学び方を身に付けることができるような指導を繰り返す。
社会的な 思考・判断	課題	地図記号や方位の知識をもとに、実際の調査場面に即して判断することに課題がある。
	重点	身近な地域や大田区、東京都内における大田区や日本における東京都の地理的位置、47都道府県の名称と位置を繰り返し調べる時間を確保する。
資料活用 の技能	課題	グラフの内容を読み取ったり、地域の地図をもとにその背景について考察し、表現することに課題がある。
	重点	単元ごとにグラフや地図などの資料をもとに考えをまとめ、発表する場を設定し、資料を読み取る指導を計画的に行う。
社会事象 の理解	課題	知識はあるものの物事を関連付けて理解することが不十分な場合がある。
	重点	分かったことを説明する活動を取り入れ、理解を確かにする。

算数科

関心・意欲・態度	課題	内容は理解しているものの、発表することに消極的な児童がいる。思考力・表現力、知識・技能の活用に課題がある。
	重点	学習に操作的活動を設けるなど、具体的に考える活動を通して基礎・基本を定着させる。ペアやグループでの話し合いの機会を設け、自信をもって説明できるように助言し励ましていく。
算数的な思考・判断	課題	数量的な見方や考え方をし、筋道を立てて解決していくことに課題がある。
	重点	文章問題を解いたり活用の課題に取り組んだりするときに、線分図や数直線などを効果的に使って、適切な立式ができるように指導する。
算数的な技能	課題	方法を理解しているが、作図や計算の正確さに欠ける児童がいる。
	重点	習熟の程度に応じた技能ドリルプリントなどを作成し、正確に行えるように技能の習得を目指す。
知識・理解	課題	意味や内容の理解はできているが、期間が空くと既習事項について振り返ることに時間を要する児童がいる。
	重点	身の回りにあるものを測定したり、数量関係を表やグラフに表したりするなど、算数の時間以外にも算数的活動を通して指導できるようにする。

理科

関心・意欲・態度	課題	「実験は好き、観察は嫌い」と答える児童が多く、自然事象への関心が低い傾向にある。
	重点	校庭や地域(洗足池など)の自然環境を生かして、具体的な観察を通した学習活動を進める。実際に自分の目で確かめることができるように、少人数での観察・実験の機会を多く設ける。観察の視点を与え、実感を伴った理解を図ることができるように指導する。
科学的な思考・表現	課題	自分の予想と結果を関連づけて、考察を書くことに課題がある。
	重点	「関連付ける」など、学年に応じた問題解決力を育てるとともに、既習事項を生かして考える習慣を育てる。
科学的な技能	課題	実験結果のまとめ方(表に整理する・数値化する)、観察の技能(何を見るかという視点をもつ)に課題がある。
	重点	実験結果・観察記録については時間ごとに内容を評価し、適切な指導を重ねることにより、技能・表現力を伸ばし、事実を正しく見る目を育てていく。
知識・理解	課題	基礎的・基本的な内容については理解しているが、電気と磁石の性質などに知識の混同が見られる。(鉄はじしゃくと引き付け合う。金属は電気を通す。)
	重点	既習事項との比較・関連付けとともに観察・実験の振り返りを丁寧に行い、物質の特徴についての理解を深めることができるように指導する。

体育科

関心・意欲・態度	課題	めあてを意識して運動することが少なく、練習方法が分かっても自ら取り組もうとする意欲が高くない。
	重点	意欲を引き出すための学習カードや練習カードを工夫する。
運動に対する思考・判断	課題	「今できる技に取り組む段階」で満足する児童が多い。
	重点	児童の発達段階に応じてスモールステップで順序良く具体的な指導を個別に講じる。
運動における技能	課題	運動する機会が少ない児童が多い。自分の腕で自分の体を支えたり、自分の体重をコントロールしたりすることができない児童がいる。
	重点	上半身を使った運動を準備運動の後の補強運動として、毎時間繰り返し取り組むようにして基本的な技の動き方や技のポイントを確実につかめるようにする。
安全・健康に対する知識・理解	課題	体の発育・発達および思春期の体の変化について、自分たちのこととして考えている児童が少ない。
	重点	自分と他人では発育・発達などに違いがあることに気付き、それらを肯定的に受け止めることが大切であることについて触れるようにする。

音楽科

関心・意欲・態度	課題	器楽では、様々な楽器に興味をもち、積極的に色々な楽器に取り組もうとしている。歌唱でも生き生きとした声で歌うことができる。グループ活動での話し合いがうまく進められない時がある。
	重点	グループ活動では、グループ編成や活動の流れ、活動の方法について熟慮し、児童が協力して活動できるようにする。
表現の創意工夫	課題	曲想にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように表すか思いや意図をもって演奏することが十分ではない。
	重点	歌詞の内容・旋律の動き・構成などその曲の中で取り上げたい音楽的要素を明確にし、それを手掛かりにふさわしい表現を工夫させていく。
表現の技能	課題	リコーダーは、4年生からレ～高いレまで音域が広がり、運指に戸惑う児童もいる。リズムアンサンブルにおける各ラテン楽器の奏法があいまいになってしまう。
	重点	リコーダーは、曲に多く出てくる音やフレーズで準備練習を行い、円滑に曲の練習を行えるようにしていく。各ラテン楽器の奏法を全体指導で確認させるとともに、担当者が決まった時点で個別にも指導を行っていく。
鑑賞の能力	課題	意欲的に楽しく聴き、音楽のよさや美しさ、音楽の諸要素・音色の特徴などの聴き取りがあいまいになってしまう児童がいる。
	重点	音楽を形づくっている要素について児童が把握しやすいように、聴くときのめあてを明確に掲示する。また、めあてをつかんで聴いたり、考えをまとめてたりできるようワークシートを作成する。体の動きを積極的に取り入れ、音楽の特徴を身体的にとらえられるようにする。

図画工作科

造形への関心・意欲・態度	課題	楽しんで造形活動に取り組んでいる児童が多い。継続できるようにする。
	重点	グループでの活動や造形遊びを多く取り入れて、さらに活動への意欲を高めていく。
発想や構想の能力	課題	発想を豊かに広げられなかったり、思いついたことの表し方がわからない児童もいる。
	重点	作品鑑賞を通して様々な表現に気付かせる。教師や周りの友達との話し合いをもとに、発想・構想できるようにする。
創造的な技能	課題	基本的な用具の使い方が定着していない児童がいる。個人差が大きい。
	重点	ICTを活用しながら、用具の使い方や持ち方などを確認する。新しい用具の使い方を練習する時間を設ける。
鑑賞の能力	課題	友達の作品の良いところを見付けするのは上手だが、それを自分の作品に生かしていくことが難しい児童がいる。
	重点	活動の途中での鑑賞の機会を増やし、気付いた友達の作品の工夫を自分の作品にも生かせるようにする。友達の工夫を、お互いの作品や活動に取り入れて、高め合いながら活動していけるように指導する。